

特別な言葉（キーワード）に着目して読み、感想を書こう

中心学習材「一つの花」（光村図書4年）

日 時：令和5年6月12日

授業者：永井 臣之介

児 童：4年2組32名

1 単元構想

（1）児童の実態

- ・「白いぼうし」で、読み深めたいことを出し合い課題を自分たちで設定する経験をしたり、行動・会話に加え状況からも人物の気持ちを考えることができると気付いたりしている。また、人物や場面の様子を表す言葉に気を付けることで、場面と場面のつながりを見付けながら読むことが少しずつできるようになってきている。
- ・自分の考えを書いて表現する力は少しずつ高まってきているが個人差がある。全体の前で話すことに奥手な児童が多い。

（2）国語科の目標

<学習の系統性>

3年「ちいちゃんのかけおくり」
場面と場面を比べながら人物の様子や出来事の違について読み取り、感想を書く経験をした。
4年「白いぼうし」
行動や会話、様子や状況を表す言葉に着目することで、場面と場面のつながりを見付け、想像を膨らませた。

<重点指導事項>

- 〔知〕様子や行動、気持ちを表す語句の量を増し、語彙を豊かにする力
(知(1)語彙 オ)
- 〔思〕登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像する力
(C(1)精査・解釈 エ)
- 〔学〕粘り強く、登場人物の気持ちの変化について場面の移り変わりと結び付けながら具体的に想像し、学習課題に沿って伝え合おうとする力

<学習の系統性>

4年
「ごんぎつね」
場面と場面を結び付けたり比べたりして、登場人物の気持ちの変化を捉える。

（3）教材の特性と主たる言語活動

① 教材の特性

この教材は、わが子に対する父母の思いが、「一つ」というキーワードを軸に表されており、その言葉を手掛かりに場面の移り変わりを自然と読むことができる。また、短い言葉で繰り返し出てくることから、言葉に込められている思いや言葉が象徴していることを様々な角度や視点で考えられる。その一方で、最後の場面（戦争後の場面）には「一つ」という言葉が全く出てこない。そこに着目することで、戦争中と戦争後の比較がしやすく、変化を読み取りやすくなっている。行動・会話のほかに、状況を読み取ることで父母の思いを豊かに想像することにつながる可能性もあり、ねらい達成に向けて適した教材であると考ええる。

② 主たる言語活動「特別な言葉（キーワード）に着目して読み、感想を書こう」

テーマ性の強い作品であり、キーワードも明確である。題名、登場人物がそれぞれ発する言葉、場面の描写で用いられる言葉などにキーワードが散りばめられ、様々な視点で考えを深めることができる。加えて、最後の場面にはキーワードが一切出てこない。そこに着目することで、場面の比較にも自然と目が向いていく可能性が高い。このように、キーワードを中心に読みを深めることで、初発の感想よりも読みが深まることが期待される。こうした点から、感想を書きまとめるという言語活動が適していると考ええる。

（4）本研究主題達成のための手立て

① よりよく獲得させたい国語科固有の資質・能力

登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像する力

② 学びを推進する力

<情緒の力>

叙述を基に、登場人物の気持ちを想像する力

<表現する力>

物語を読んで想像したことを書きまとめる力

③ 具体的方策

（第3・4・5・6時）

気持ちや性格について想像するために、行動の描写と状況に関連付けたり、繰り返し出てくる言葉の意味を人物や場面ごとに比較したりする。

（第3・4・5・6時）

情緒の力で想像した内容や友達との交流で深まった読みを基に再考するために、様子や行動、気持ちを表す語句を用いながら「自分の考え」を書く機会を単位時間の終末部に設定する。

2 単元の学習計画

(1) 単元の評価規準

- 〔知〕 様子や行動、気持ちを表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。 (知 (1) 語彙 オ)
- 〔思〕 「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。 (C (1) 精査・解釈 エ)
- 〔主〕 粘り強く、登場人物の気持ちの変化について場面の移り変わりと結び付けながら具体的に想像し、学習課題に沿って伝え合おうとしている。

(2) 指導と評価の計画 (7時間)

次	時	○学習活動 ・ 学習内容	指導上の留意点 〈発揮させる学びを推進する力〉	評価規準・評価方法等
一	1	○「一つの花」という題名から想像できること、予想されるキーワードを出し合う。 ○作品を読む。 ○初発の感想と「みんなで考えたいこと・深めたいこと」「キーワード」を書く。	・今までの題名を想起し、類推しやすくする。 ・読む前に書くことを確認する。 ・初発の感想と、読み深めたいことをロイロノート上にアップし、共有する準備をする。 〈課題を設定する力〉	
	2	○考えたいことを共有し、整理する。 学習の計画を立てよう。 ○単元名を決める。 キーワードに着目して読み、感想を書こう。 ○「設定」という言葉を確認する。 ・登場人物や場面の様子を整理したり、時代背景を把握したりする。	・ロイロノートの共有機能を使い、読み深めたいことを整理する。 ＜主に取り上げたい点＞ ・一つにこめられた意味、表すもの ・どんな気持ちで「一つ」と言っているか。 ・お父さんの会話、行動の意味 ・最後の場面から読み取れること ・キーワード（「一つ」や「一つの花」）を考えた上で、最後の場面に出てこないことに着目できるようにする。 〈課題を設定する力〉	
二	3	○「一つ」という言葉を手掛かりに、どの場面で、誰が、どのような気持ちで使っていたのかを整理する。 ゆみ子にとっての「一つだけ」はどんな言葉なのだろう。 ・物語の設定を手掛かりに読む。	・時、場所、人物の設定について確認し、話を概観する。（3時のみ） (以下、3～6時) ・気持ちが読み取れそうな描写に線を引く活動を共有ノートで行い、考える箇所の焦点化と共有化を図る。 ・個人と班で考える時間を設定する。 ※行動描写や状況から登場人物の気持ちを考えることができるように、自分の体験と結び付けたり、キーワードを反意語に置き換えたりしてみるように必要に応じて促す。	[知識・理解] ノート・ロイロ・発言 様子や行動、気持ちを表す語句の量を増し、語彙を豊かにしているか確認する。
	4	○両親の話していることや行動から、気持ちを想像する。 お父さんとお母さんの行動の意味は何だろう。 ・行動、会話、状況から想像する。（3～6時）	〈情緒の力〉 ・行動や会話から想像した気持ちを全体で共有する。	
	5	○「一つだけ」わたしのお父さんの気持ちを想像する。 なぜ、お父さんはゆみ子に「一つだけの花」をあげたのだろう。 ・行動と会話、様子を関連付けて想像する。	・納得した考えなどを中心に位置付けるとともに、課題に対する自分の考えを二段落構成で書く。 ①読み深まったこと・分かったこと ②自分の考え 〈表現する力〉 ・納得できた過程でどんな力が発揮されていたのかをメタ認知し、活用できるようにする。	[思考・判断・表現] ノート・発言 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けながら具体的に想像しているかを確認する。
	6 本時	○「一つ」が全く出てこない場面から分かることを考える。 （「一つ」がない）最後の場面から分かることは何だろう。 ・状況の変化を手掛かりに想像する。		

三	7	○今までの学習を想起しながら感想を書く。 感想を書き、互いの考えを伝え合おう。 ○互いの考えを交流するとともに、学びが深まった点について整理する。 ・付けた力や伸びた力を認知する。	・①最初に読んだ時の印象や感想 ②読み深めて分かったこと ③「キーワード」について考えたことの三つの段落構成で感想を書くよう視点を確認する。 ・キーワードに着目したり状況の変化を読み取ったりすると人物の気持ちの変化を捉えることができることについて考えたことを交流し、自覚化を促す。 〈受容・共感〉 〈メタ認知する力〉	[主体的に学習に取り組む態度] ノート・発言 粘り強く、登場人物の気持ちの変化について場面の移り変わりと結び付けながら具体的に想像し、学習課題に沿って伝え合おうとしているか確認する。
---	---	---	---	---

3 本時の指導（6／7時）

（1）ねらい

登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。

（2）展開

学習活動 ・ 学習内容 （◎主発問）	指導の手立て 〈主に発揮させる「学びを推進する力」〉（※評価）
1 前時の学習を想起する。 2 学習課題を確認する。 （一つという言葉がない） 最後の場面からどんなことが分かるだろう。	・キーワードを基に場面を大まかに振り返り、最後の場面だけキーワードがないことを再確認する。この場面構成と、題名「一つの花」とを比べることで、最後の場面がある意味に目を向けさせ、何が伝わってくるか考えるよう方向付ける。
3 最後の場面から分かることを考える。 （1）状況や気持ちを想像できる叙述に線を引く。 （2）叙述から分かることを考える。 ・コスモスの花、食べ物、登場人物の行動、その他の状況などを観点に、変化していることから何が読み取れるかを考える。 （3）班および全体で交流し、広げたり深めたりする。 ◎どんなことが分かりましたか。 （物語の主な描写） ①「コスモスの花でいっぱいに包まれています。」 「コスモスの中から」「コスモスのトンネル」 ②「お肉とお魚とどっちがいいの。」 ③「スキップしながら」「小さなお母さんになって」 ④「ミシンの音がたえず速くなったりおそくなったり」「ミシンの音がいそがしく始まった」 ⑤「お父さんの顔を覚えていません。」「自分にお父さんがあったことも、あるいは知らないのかもしれません。」 ◎お父さんがこの状況を見ることができたら、どんな気持ちになると思いますか。	・状況の変化が分かる叙述（コスモスの花、食べ物、登場人物の行動など）に線を引く活動を共有ノートで行い、考える箇所の共有化を図る。 ・取り上げたい叙述を決め、考える時間をとる。 ・考えたことをつないでいき、考えを共有する。 （描写から分かること） ①大切に育てたのではないか。 「一つ」に対して「いっぱい」だから、心が満たされるようにいっぱいにしたと思う。 ②食べ物が増えている。選べるようになっている。 ③楽しそうな雰囲気 立派に成長している。 ④お母さんは生きている。しかし、仕事をしなくてはならない。 ⑤お父さんは帰って来なかった。 お母さんは、お父さんがいなくても一生懸命育てた。
4 交流して分かったことを基に自分の考えを書く。 （例） ①～というところから一が分かる。 ②お父さんが見ていたら…だと思う。 評価規準参照 5 学習を振り返る。	・前時までで考えた「父母の思い」はどうなったのか、状況から想像できることを考えるきっかけをつくる。〈情緒の力〉 ・一段落目にはこの場面から分かることを書き、二段落目には「お父さんが見ていたら」という書き出しで自分の考えを書くように提示する。〈表現する力〉 ※様子を表す言葉や特別な言葉などを手掛かりに、状況の変化を捉えている。また、その変化から分かることや想像できることを記述している。（ノート、発言） ・前までの場面と比べて考えてみたらどうだったかを振り返るよう声をかける。 ・場面の様子を比較することで変化を読み取りやすくなることを価値付ける。

(3) 評価

評価規準 《評価方法》	登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。 《ノート、発言》
見取りの要素と 表現例	○見取りの要素 ・様子を表す言葉や特別な言葉などを手掛かりに、状況の変化を捉えることができる。また、その変化から分かることや想像できることを記述している。 【例①】「お肉とお魚とどっちがいいの。」という言葉から、 <u>前よりも食べ物が増えた（状況の変化）</u> ということが分かりました。 <u>食べ物を選べるくらいにまでなっていて、戦争中よりゆみ子は満たされていると思います（想像）</u> 。お父さんはこの姿を見て、 <u>ゆみ子が喜びを知ることができていると安心したと思います（想像）</u> 。 【例②】 <u>一つだったコスモスがたくさんになっていること（状況の変化）</u> から、 <u>ゆみ子たちが花を大切にしたこと（想像）</u> が分かりました。 <u>お父さんもきっと喜んでいるし、安心している（想像）</u> と思います。
個に応じた支援	・前時までの学習で「一つ」という言葉がどのような状況で使われていたのかを掲示を基に振り返り、最後の場面との違いについて考えをもてるようにする。挿絵なども手掛かりとする。 ・最後の場面がなかったらどうであるかを問い、最後の場面の印象を想像できるよう支援する。また、印象が想像できたら「どこから特にそう感じたか。」を問うことで根拠を探すきっかけ作りになるよう支援する。

以下、資料

課題設定時の子どもたちの考え（共有ノート上のカード）

